



CONTENTS

「チューリップセレクト2012」 アレンジ作例付きのパンフレットを販売にご活用ください
 「花の価値をどう伝えるか」切り花チューリップ専用前処理剤使用についての意見交換会から
 「フラワーバルブオブザイヤー2012」はチューリップ 'ストロングゴールド' に決定
 多くの人々のちから合わせ陸前高田に「希望の庭」完成 花による復興支援活動にIBCも協力

CONTENTS

「チューリップセレクト2012」 アレンジ作例付きのパンフレットを販売にご活用ください

IBCでは専門店向けに12品種の有望なチューリップの切り花品種を選び「チューリップセレクト2012」を提案、店頭での切り花の販促に活用していただきたいと考えています。オランダで毎年加えられる新品種やユニークな姿のものなどを含めた多数の品種の中から、花型・色・入手のしやすさ・珍しいもの、新品種などおすすめしたいポイントをさまざまに検討してセレクトされています。すべて切り花として特に優れた品種です。これらの花はすべて、日本の生産者の手でしっかりと育てられている国産の花で、市場などを通じて手に入れることができます。

「チューリップセレクト2012」に選ばれたのは次の12品種。1. フラッシュポイント、2. ホワイトリバースター、3. モンテオレンジ、4. サンタンダー、5. ストロングラブ、6. マリーヨー、7. カルトウシュ、8. サンネ、9. ホワイトハート、10. スノーボード、11. ピンクフラッグ、12. イエローサン。

このパンフレットやポスターは市場、仲卸、花店を通じて配布していただいています。また、IBCのホームページからダウンロードしてプリントすることも可能です。

<http://www.kyukon.info/> 右下の「チューリップセレクト2012」というリンクのPDFファイルをご覧ください。

チューリップセレクト2012(PDFファイル) http://www.kyukon.info/Tulip_Select_2012.pdf



「チューリップセレクト2012」のパンフレットの素敵な作品を制作してくれたのはオランダのマスターフローリスト、アストリットファンデルベルク Astrid van der Berg さんです。自身のショップでのレッスンやキューケンホフ公園内の展示施設のコーディネーター、各種の展示会のブースデザイン、また、オランダ花卉協会の仕事などで世界的に活躍されています。日本には、国際フラワーEXPO(IFEEX)での展示やデモンストレーションの仕事で毎年、来日されています。

来年1月に発売される誠文堂新光社の月刊誌「フローリスト」2月号(1月8日発売予定)では、アストリットさんによる「チューリップセレクト2011」の品種を使ったアレンジ作品を見ることができます。作品の制作、撮影もすべてアストリットさんのオランダのお店(ガラスハウスをそのまま使ったすてきなお店です)で行われました。アストリットさんは、オランダで有数の球根生産地の球根農家に生まれ、幼い頃からお手伝いをしたり、市場に連れて行ってもらったり、文字通りチューリップに囲まれて育ちました。特集では、チューリップとともに生きてきた彼女がこの花への想いを語っています。長い茎を持ち、自由気ままに動くチューリップの切り花を



日本でのIFEX会場にて2011年



撮影の準備をするアストリットさん



サンネ



ストロングラブ

「なんてわがままな花なんだろう」と思っていた彼女が、フラワーデザインの道に進み、やがて、チューリップの魅力にあらためて気づいていったようすが自身のことばで語られます。生産者の方にも、フラワーデザインを志す方にも、おすすめしたいすばらしい内容です。ぜひ、ご期待下さい!

「花の価値をどう伝えるか」切り花チューリップ専用前処理剤使用についての意見交換会から

どの業界、商品にとっても「信頼性」が重視される昨今、花業界、切り花チューリップについても同じことが言えます。前処理剤「クリザール BVB プラス」の使用に関する“花首が伸びない、葉が黄色に変色しにくい、花保ちがアップ”など、その使用のメリットについて、チューリップ切り花生産者3社代表とバイヤー1名、またメーカー、クリザール社が出席して意見交換会が行われました。

切り花トップ3内の常連であるチューリップ。基本的にシーズンが限られているアイテムであるにもかかわらず、その位置は不動とも言えます。特にクリスマスからイースターにかけてのシーズンの強さは格別で、色、花形いずれをとっても種類が豊富なことが最大のメリットになっています。その反面、デメリットとして「花首が伸びていくのでブーケあしらいに不向き」、「葉が黄色く変色しやすい」、「花瓶での鑑賞日数が短い=花保ちが良くない」などがあげられます。切り花バイヤーの立場からは、なんといっても商品の「保証」というものが重要で、なおかつ実際にその辺りからの要望も出ていることから、切り花生産者にとっても重要な課題となっていました。そこで、今、話題になっているのが、前述の前処理剤です。

意見交換会に出席したチューリップ切り花生産者3名は、出荷シーズンや品種、生産規模をとってもそれぞれ異なるタイプ。バイヤーは球根花を専門としており、またその会社はキャッシュ&キャリア、卸屋からウェブショップまで幅広く手がけています。どの立場も「クオリティ」を重視していることには違いはありません。

最初の生産者は12年にわたって長年前処理剤を使用しているとのことで、すでに定例化している。その効果はバイヤーの間でも一定の評価を得ています。経験からも「花首伸び抑制、葉の黄色変色抑制」に効果が見られる。しかし、花を搬入している花市場では、前処理剤使用についての「差別化」には協力的ではなかったようです。この生産者は約90品種のチューリップを栽培していますが、前述の前処理剤「クリザール BVB プラス」を今シーズンからパッキング後に、品種を選ばず全品種に使用する考えです。輸出業者、バイヤー約20社に向けてその旨を通知しアピールしています。



次の生産者は昨年より前処理剤使用を始めました。社内でも意見交換が行われた末、同社生産のチューリップに「付加価値 プラス を」という趣旨で決定しました。まず5品種でテストし、結果も良好でした。前処理剤使用に関しては、バイヤー向けにプレゼンテーションも行い、またパッキングにもステッカーを貼り、アピールしていくとのことです。



3番めの生産者は前述の前処理剤「クリザール BVB プラス」の使用3年目。使用の有無、品種については顧客であるバイヤーに任せるという考えです。

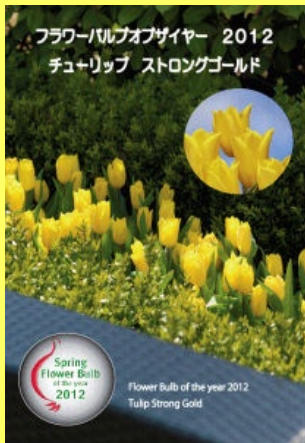
次に業者バイヤーの立場からの意見を見えます。まず、バイヤーのもとから、さらに輸出業者に卸す場合、今のところ直接高値にはつながっていないということでした。ただ、「前処理剤使用」ということでオーダー増加にはつながっているといえます。小売店、フローリストからの反応のなかには、チューリップの花首が伸びにくくなったため、ブーケあしらいに使いやすくなったとの声があるそうです。前処理剤使用にも余分なコストがかかってくるわけですが、そのあたりを3、4年様子を見ようという姿勢。その間、クオリティアップを実際にアピールしていく必要がありますが、イギリスやドイツの業者には好意的に受け止められているということです。

以上の意見交換会からも、行き着くところはやはり前処理剤使用にあたって経費負担の増加が課題になっているように見えてきます。栽培者仲間でも、他社の動きを見守っている雰囲気があるようです。

花が搬入されてくる花市場の反応はというと、前処理剤の義務化ということにはまだほど遠いようです。使用するか、しないかについては、あくまでも生産者側の責任、判断に任せるという姿勢のようです。前出の生産者3社も、結局のところ作る側にクオリティの責任はある、という意見です。「前処理剤使用」というアピール、情報の提供方法に課題があると考えています。

つまるところ、切り花トップ常連のチューリップは、これから、より信頼性のある「保証付きのチューリップ」ということで、前処理剤使用によるチューリップの取引販売アップにつながって欲しい、という望みは強いものがあるということ。よりポピュラーな花になってバラをしのぐこともできるのではと、ニューシーズンへの期待も高く、ポジティブな声で意見交換会も無事終了しました。(「BloembollenVisie 2011」の記事から)

「フラワーバルブオブザイヤー2012」はチューリップ 'ストロングゴールド' に決定



フラワーバルブオブザイヤー 2012 はチューリップ 'ストロングゴールド' に決定しました。明るく力強い黄色が元気を与えてくれる文字通りパワーに満ちた花です。栽培しても強く、様々な後発品種の育種親にもなっています。

オランダ国際球根協会ではこれまで 12 年間、6 カ国で「フラワーバルブオブザイヤー」を選定してきました。トップガーデナーナリストが審査員として選ばれ、厳選に審査しています。審査では、まず専門家によるメンバーが候補となる品種を推薦。その後、ガーデンのトレンドなどに詳しい審査員が責任を持ってその年の「フラワーバルブオブザイヤー」を決定します。2012 年の春は、日本でもさまざまところで'ストロングゴールド'の元気な黄色が見られるといいですね！

世界各国のフラワーオブザイヤーについてはこちら

<http://www.prod.bulbsonline.org/ibc/nl/professional/inspiration.jsf/Inspiratie/bloembol-van-het-jaar1/2000-2007.html>

BKD 花き球根検査所発表 春咲き球根花ランキング動向 'ストロングゴールド'強さ目立つ

2011 年 1 月 24 日に、BKD オランダ 球根検査所発表が 春咲き球根花種類の作付け面積の動向を発表しました。主だった変化は見られないものの、ところどころに今年の傾向も見えています。

まず人気アイテム、チューリップを見てみると、品種 'ストロング ゴールド' の強さが目立ちます。15 年前前に登場した当時は作付け面積 5 ha に満たなかったこの品種、2010 年シーズン終了時には、なんと 177 ha と約 100 倍の成長を見せて堂々のランクナンバー 1。重さ、長さ、花保ちと好条件が揃っていることがその理由とされています。

ナンバー 2 は、これも上位定番品種の 'レーン ファン デル マルク'。作付け面積は、前年比マイナス 12ha となりましたが、432ha と強さを保っています。

ナンバー 3 は 赤色の 'イルド フランス、308ha。面白いのは、ナンバー 2 と 3 のどちらも 1968 年発表の品種であること。ナンバー 1 の 'ストロング ゴールド' でも 1989 年と 20 年前発表の品種です。このことから、上位品種は長寿品種と言えるようです。

チューリップ全体の作付け面積は、昨年の見通しでは減少の傾向と見られていましたが、結局、2010 年の 9,850ha から 10,286ha と増加しました。

100 ha 以下の品種の動向を見てみると、'パープル プリンス'、'パープル フラッグ'、'キャンディー プリンス'、'サニー プリンス'、'クリーム フラッグ'、'フレミング フラッグ'、'ピンク フラッグ' など既存品種の色変わり、枝変わり品種が多いことが目立っています。

また、その他の増加を見せている品種では、'エスケープ' (60 ha から 77ha)、'デンマーク' (20ha から 30ha)、'ヤン セグネッテ' (52ha から 80ha)。逆に、おなじみの 'ヨコハマ' (268ha から 187ha) は減少しています。

その他の花、スイセンでは作付け面積 1660ha と前年並み。特にポット用の品種 'Tete-a Tete'(テタテート) が 695ha から 744ha に大幅増加。

ヒヤシンスの作付け面積は全体で 50 ha 減少。特に多年ものの 'ピンク パール'、'スプレンドिट コルネリア' の後退が著しい。1 年ものでは 'デルフト ブルー' が 42ha から 30ha へと減少しているのも無視できません。



クロッカスも減少。ここ4年間で100ha減少しています。これは作付け面積の1/4を占める割合である。‘ピクウィック’(21haから11ha) ‘ジャンヌ ダルク’(56haから52ha) ‘グランメートル’(22haから18ha)などとなっています。

その他は安定しているようです。アイリスは284ha。‘ブルーマジック’(+5ha)が健闘。ムスカリは184ha。‘ブルーマジック’と‘ホワイトマジック’が作付け面積を伸ばしています。アリウムは、やや減少し169ha。シラー30ha。チオノドクサ22ha。アネモネ23.5haとなっています。

(「Bloembollenvisie 2011」の記事から)

多くの人々のちから合わせ陸前高田に「希望の庭」完成 花による復興支援活動にIBCも協力

3月11日から8ヶ月を経た今、復興地は本格的な冬を迎えようとしています。東日本大震災に復興支援に力を尽くす「花の力プロジェクト」の活動に対してIBC日本チームのメンバーも設立時から主要なサポーターとして参加、活動してきました。

11月3日、陸前高田市の国道45号線バイパス沿道に市民により作られた1kmにも及ぶ「フラワーロード陸前高田」の花壇。津波によってすべて流されてしまったこの花壇を「希望の花いわて3.11プロジェクト」の主催により植え込みをおこない、地元の方150名の協力で「ジャクリーン花壇：River of Flowers」6基の再生した花壇として完成させました。

ジャクリーンさんには前日の夜に、セミナーを開催しレクチャーを行っていただきました。参加者には、今まで関わってきた美しい植栽の映像も見ていただきました。ジャクリーン方式の自然な雰囲気を楽しむ球根の植え方は、色を合わせ、開花時期や背の高さを計算されたさまざまな種類の球根をあらかじめミックスしておき、それを植え付け場所に放り込んでいきます。参加された方にとっては、驚きと、楽しみのある作業になったようです。ここではまず、培養土を枠より20cm低く設定した花壇にランダムに撒きます。球根の芽が上に向くよう揃え花壇枠いっぱいに培養土を入れ、それからパンジーやビオラを植え付けました。



11月5日には、先の「フラワーロード陸前高田」花壇より2km離れた菅原動物病院跡に用意された「希望の庭：Garden of Hope」を完成させるために東京からのボランティアバスツアーを実施しました。ここで「陸前高田花愛好家の皆さん」主催により地元の方100名と「花の力プロジェクト」サポーター43名が協力して植え込みを完成させました。

現地では、津波の巨大な力で表土を剥ぎとられ、堅い粘土質の基層がむき出しになっていました。最初は瓦

礫を取り除き、固くなった地盤を耕し軟らかくしていく作業から始められました。そこに土壌改良材や堆肥などを大量に入れ、たくさんの人々の手で植え込みベッドを作りました。まずパンジー・ビオラの苗を植え、その後あらかじめミックスされた球根を放り込んで（ジャクリーン方式で）それぞれの場所に植え込みました。球根はネズミなどに食べられないようにしっかりと深く植え付ける必要がありましたが、それぞれ自分の庭に花を植えるようなつもりで会話したり、楽しむことも話ずれずに作業を進めることができました。

先月号でも紹介しましたが、オランダのガーデンデザイナー、ジャクリーン・ファン・デル・クルートさんには、両方のプロジェクトに関わっていただき、植え込みの植栽プランの設計・デザインなどをお願いしました。ジャクリーンさんは、本人の意志で、今回のフラワーロード陸前高田の植え込みに合わせて再来日し、イベント前日の球根ガーデンセミナーの開催、3日の植え込み作業まで参加いただきました。「希望の庭」での植え付けを行った11月5日。ジャクリーンさんは心を残しながら4日、仕事のために帰国されています。IBCメンバーは、ジャクリーンさんの代わりに植え付けの段取りや指導などもさせていただきました。

「花の力 プロジェクト」のオフィシャルサイト <http://hananochikara.org/>



IBCからは復興の地に向けてチューリップなど5万球以上の球根を提供させていただきました。このたくさんの球根は、ガーデンに植え付けられたほか、地元ボランティアのみなさんに身近なところで育て楽しむように配られました。「花の力」と多くの「人の力」によって完成したそれぞれのガーデンは、地元の人々に見守られながら冬を迎えます。なにもない固い土しかなかった場所はたくさんの人々の手によって、植物が育つ柔らかい土に生まれ変わりました。人が集える『希望の庭』がここにある。球根や小さな花の苗を自分の手で植え付けた陸前高田のみなさん・・・関わった人々の心の中に静かに、しかし、とても暖かい思いとして存在し続け、やがて来る希望の春を待つ人を温め続けることでしょう。



先日、「花の力 プロジェクト」に対して、オランダ大使館駐日全権大使から陸前高田のプロジェクトについてのお手紙が届けられ、また、ご寄付も頂いたそうです。これは、11月3日の「大使公邸公開の日」にオランダのお菓子和球根を販売した一部だそうです。あらためて、オランダと日本と絆を思い、みなさまに感謝したいと思います。

クリスマスツリーが飾られ小さな明かりが灯されています。今年も、もうあとわずかです。10月は暖かく、今年は暖冬かと思われましたが、あちこちで初雪の便りが聞かれるようになってきました。球根は土の中でもう成長を始めています。今月は花を手にしみに寄り添い力を合わせる人々の活動を紹介しました。植物の力や知恵、そして人を思う冬になりそうです。

オランダ国際球根協会ニュースレター第032号(2011年11月号) 発行：オランダ国際球根協会

HP：<http://www.kyukon.org/> メールアドレス：ibc@aurorajp.com